

支部便り

第15回東海支部女性の会 「軽金属分野で活躍する女性研究者・技術者と話そう ライフプラン・キャリアプランを考える7」開催報告

Report on the 15th women's meeting from Tokai branch

成田 麻未

Mami MIHARA-NARITA

東海支部女性の会では、会員同士の交流や理系女子学生に社会人として働くイメージをもってもらうために、講演会、工場見学会および交流会を開催している。今年度は8月に講演会、12月に工場見学会を実施することとし、2023年8月1日(火)にオンライン形式で講演会および交流会を開催した。その様子を報告する。

軽金属分野で活躍中の女性を講師にお招きし、仕事内容の紹介に加え、社会人になってからのキャリアと分岐点、その道を選択した理由等を講演いただいた。講演者は以下の4名である(講演順に記載、敬称略。カッコ内は講演者の近況)。

株式会社UACJ 藤村 涼子

(R&Dセンター 空調熱交材料開発室室長)

日本軽金属株式会社 清水 さゆり (2児の母、育休明け)

富山県立大学 鈴木 真由美 (機械システム工学科教授)

産業技術総合研究所 榎藤 詩織 (ドイツに留学中)

参加者は合計25名(講師含む)であり、内訳は、学生4名、企業12名、大学6名、研究機関2名、および中学校・高校教員1名であった。

藤村氏からは、スタッフ(管理職ではない)時からどのように働き方が変化していくかについて詳しくご講演いただき、「入社何年目で管理職になれるか?女性管理職は何人ぐらいいるのか?部下への指導で難しいと思うことはあるのか?」など多くの質問があった。

清水氏からは、夫婦共働きをしながら子育てをするうえで、職場でのチーム体制が非常に有効であるというお話があった。育児に限らず、介護や本人の怪我・病気等によっても、職場で急に休みを取る必要がある場合が考えられる。その際に柔軟に対応ができ、フォローしあえる職場の風土が作られていることに、大変驚き感心する声が多かった。

鈴木氏の講演では、大学教員として研究活動を行うまでの歩みについて、進路選択の様子から詳しくお話しいただいた。研究したい気持ちを持ち続け、それを周りが支えてくれたおかげで今があり、それを周囲に返したいというお気持ちをうかがった。

榎藤氏はドイツのドルトムント工科大学より時差があるなか参加いただいた。1日の過ごし方に加え、なぜ今留学を選択したのかについて、詳しくお話しいただいた。将来を見据えて思い切りのよい選択をする様子に、刺激を受けた方も多

かったと思う。

講演会後はZoomのブレイクアウトルームを使用して交流会を行った。「時間が短く感じた」という前回のアンケート結果を踏まえ、今回は各ルーム4、5名に分かれて1回20分で2回の交流会を行い、最後に全体交流を行った(図1)。ブレイクアウトルームでは、学生や若手女性の悩みを共有し、どういったキャリアパスが可能であるか、他の方の例を参考にしながらじっくり考える良い機会となった。大学教員を目指すうえで必要なことや、研究者同士の別居婚の話、出産後に復帰しにくい印象があるが実際どうか、というような話から、仕事と介護の両立の話まで、バラエティに富んだ話題で大変盛り上がった。

今回の開催にあたっては、世話人の間でもオンライン開催とするか対面開催とするか議論があった。対面開催とすることによってより深い交流が期待できるが、今回はオンライン開催であったために育児休暇中の方や海外留学中の方にも参加いただけた。そのため、オンライン開催を継続し多種多様な方々に参加いただくことがより良いのではと感じている。また、他学会で女性の会を企画している方にもご参加いただき、コラボレーションを構想する良いきっかけとなった。

事後アンケートでは、交流会の時間はちょうどよかったという声が多く、また、多様なロールモデルの共有が女性の活躍に繋がるのだろうとの意見をいただいた。また、回答した学生からは「軽金属業界は面白そう。就職の選択対象である。」と回答いただき、嬉しい限りである。

東海支部では、軽金属分野で活躍する女性の生の声を聞ける貴重な機会を提供できるよう、講演会や工場見学会を企画していく予定である。性別はもちろん、会員、非会員、国内外問わず、参加可能としているので、今後とも是非多くの方に参加いただきたい。

最後に、本会開催にあたりお忙しいなか講演いただいた講師の皆様、参加いただいた方々ならびに参加者募集にご協力いただいた皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。



図1 集合写真(全体交流の様子)